



2025年11月13日

各位

会 社 名 株式会社RS Technologies
代表者名 代表取締役社長 方 永義
コード番号 3445 東証プライム市場
問合せ先 執行役員 経営企画部長 田渕 勝也
電 話 03-5709-7685

2025年12月期 第3四半期 決算説明 質疑応答集

当社は、本日開示した2025年12月期第3四半期決算について、想定されるご質問と当社の回答を以下のとおり開示いたします。

(ご参考:主なグループ会社一覧)

セグメント	社名(略称)	製造拠点	主な取扱商材
ウェーハ再生事業	RS テクノロジーズ	三本木工場	再生ウェーハ/販売ウェーハ
	RS 台湾	台南工場	
プライムウェーハ事業	グリテック サントングリテック GRITEK/山東GRITEK	北京工場/德州工場	シリコン部材、FZ インゴット、 5, 6, 8 インチプライムウェーハ
	エスジーアルエス S G R S (持分法適用子会社)	德州工場	12 インチプライムウェーハ
半導体関連装置・部材等事業	RSテクノロジーズ	なし(商社)	半導体製造検査装置、電子部品
	ユニオンエレクトロニクスソリューション	なし(商社)	半導体製造検査装置、電子部品
	ディージー D G テクノロジーズ	栗原工場、神栖工場	エッチング装置用消耗部材
	エルイー LEシステム	浪江工場	VRFB 用電解液/エネルギー関連事業
	RS ^{イウダ} 電源/RS ^{バンジエフ} 攀枝花	攀枝花工場	VRFB 用電解液
	アールエスピーディーエイチ R S P D H	クイシュー 惠州工場	光ピックアップ/車載カメラモジュール

Q1: 中期経営計画2025の進捗について教えてください。(決算説明資料P9)

A1: 3Q時点での売上高は概ね計画通りに進捗いたしました。一方、営業利益に関しては、中国市況の短期動向の影響を受け、期初の社内想定よりやや遅れが生じている状況でございます。

前年同期比においては、売上高及び全ての利益段階で上回る進捗となっておりますので、今期も引き続き増収増益を実現すべく全社一丸となって邁進してまいります。

<ウェーハ再生事業>

Q2: ウェーハ再生事業の3Qの振り返りをお願いします。(決算説明資料P6)

A2: 三本木工場、台南工場ともに設備投資により、生産数量が増加し、前四半期比4.2%の増収、営業利益率も上昇し、営業利益は13.2%の増益となりました。

通期の社内計画に対しても、3Q時点では想定通りに進捗しております。

Q3: 上期と比較して、3Q(7-9月)は営業利益率が回復したのはなぜでしょうか？(決算説明資料P6)
(1Q 36%、2Q 35%、3Q 38%)

A3: 上期に多かった原価率の高い販売ウェーハ比率を調整により減少させることができたことが主要因です。今のところ、この比率は4Qも3Q同程度を見込んでおります。加えて、設備投資による生産数増加も営業利益率上昇に寄与いたしました。

Q4: ウェーハ再生事業の設備投資の状況を教えてください。(決算説明資料P13)

A4: 三本木工場の今期計画である2万枚/月の能増(計34万枚/月)は8月に完了しました。

台南工場は、2Q時点で、今期計画である2万枚/月の能増(計29万枚/月)を完了しておりましたが、需要増加により1万枚/月を前倒し、3Qから計30万枚/月の生産能力となりました。

これにより今期の設備投資は三本木、台南工場ともに完了いたしました。

<プライムウェーハ事業>

Q5: プライムウェーハ事業の3Qの振り返りをお願いします。(決算説明資料P6)

A5: 前四半期比で、売上高は微増いたしましたが、営業利益率が低下し、減益となりました。当セグメント内のプライムウェーハ、シリコン部材の売上高割合は、前四半期と同程度の65:35でした。

この3Qに、営業利益率が低下した要因の1つとして、シリコン部材の単価が低下したことが挙げられます。市況環境による単価増減の可能性に関しては今後注視してまいります。

また、前年3Q比(7-9月)では、営業利益率が9pt低下いたしました。(27.7%→18.7%)前年3Qは、シリコン部材の特需があったこと及び研究開発費が少なかったことにより、営業利益率が想定以上に上昇したことが背景でございます。

Q6:8インチウェーハの出荷数量、単価の状況を教えてください。

A6:今期に入り8インチウェーハの単価は低下傾向でしたが、3Qは前四半期比で数pt回復いたしました。

今期の単価動向に関しては、主力商品である高電圧用パワー半導体向けの単価下落幅は小さく、安定している一方、一部の低電圧用及びIGBTといった汎用性のあるウェーハの下落が顕著に見られました。

今期計画である5万枚／月の能増(計25万枚／月)の完了は12月末を予定しておりますが、9月時点ですでに約半分の能増が完了しており、出荷数量に貢献しております。

Q7:プライムウェーハ事業の今後の見通しを教えてください。(決算説明資料P44、45)

A7:中国の8インチ市場は、12インチの台頭により、来期も引き続き需給の緩い状況が継続するものと予測しております。しかしながら、需要先である半導体メーカーが現在も設備投資を継続していることから、中長期的には一部のパワー半導体向けを中心に、需要は緩やかに増加すると見ております。中国市況の短期動向は変動しやすいものの、中長期的な需要を見越し、当社は来期も適切な設備投資を実施していく意向です。

また、今後は需要増加を見込める主力商品の生産に注力し、製品構成の見直しを図るとともに、新たな顧客層の獲得にも取り組んでまいります。

<半導体関連装置・部材等事業>

Q8:新規事業RSPDHの3Qの振り返りをお願いします。(決算説明資料P6、27)

A8:RSPDHでは、M&Aにて承継した一定数の光ピックアップモジュールの生産、販売を2Qより前倒しで行っている関係で、引き続き当セグメントの50%以上を占める売上高を計上いたしました。営業利益率に関しては、生産数増加に伴い、3Qも期初想定以上の実績となりました。

前倒しで生産している関係で、承継した光ピックアップモジュールの生産残数は僅かとなり、4Qの生産数は減少する見込みですが、通期の売上高は期初想定 of 100億円規模を超える見通しです。

Q9:RSPDHが参入を計画している車載カメラモジュール市場について教えてください。

A9:世界の車載カメラ市場は、ADAS(先進運転支援システム)、自動運転の普及等を背景に、2037年までの期間にCAGR約12%で成長すると言われております。中国においても、ADAS搭載率の上昇に伴い、市場規模は急速に拡大していくものと予測されております。

車載カメラモジュールは、大きく2つのカテゴリーに分けられます。1つは、バックフロントなどに使用するビューカメラ、もう一つはADAS等システムに使用するセンシングカメラです。当社は今後、後者のシステムに組み込むようなセンシングカメラ市場を中心にプレゼンスの拡大を図る予定です。

Q10: 9/26開示「江西盛泰精密光学有限公司の第三者割当増資引受による連結子会社化に関するお知らせ」について教えてください。どのような目的のM&Aなのでしょう？

A10: 本件により、中国のカメラモジュール企業 盛泰(シェンタイ)の子会社で、車載カメラモジュール事業を展開する江西盛泰(ジャンシー)を、当社グループに迎え入れる計画です。

主な目的として、江西盛泰(ジャンシー)はすでに、車載カメラモジュールの設備、人材、設計ノウハウを有しているため、当社は本件を中国車載カメラモジュール市場への迅速な参入の足がかりにしたいと考えております。また、当社及び盛泰(シェンタイ)は、生産管理、調達、販路等といった RS グループとのシナジーを活用することで江西盛泰(ジャンシー)の企業価値向上を実現できると考えています。

今後先ずは、RS グループのつながりを駆使することで、中国のシステムインテグレーターを中心に販売を強化してまいります。その後は RS グループとしてグローバルへの販売も企図しております。

なお、本件の契約締結は2025年 11 月末を予定しております。

Q11: エネルギー事業(LE+RS^{エネルギー}資源)の3Qの振り返りをお願いします。(決算説明資料 P6、22～26)

A11: 3Q の売上高貢献の主なトピックスとして、トータルエネルギーソリューション事業の1つである、電気料金最適化コンサルティングと、中国への電解液販売がありました。

通期の売上高期初目標に対しては、現在も達成を目指して営業活動に邁進している状況です。

Q12: 9/26 開示「中国における子会社設立のお知らせ」の中国 VRFB 用電解液の工場建設について教えてください。(決算説明資料 P25)

A12: 2025 年 6 月に設立した当社子会社 RS 資源と中国企業が合併で、艾斯能源科技(攀枝花^{バナジウム})有限公司を2025年10月に設立し、四川省攀枝花市に攀枝花工場を建設いたします。

攀枝花市は、中国有数のバナジウム産出地です。また、地方政府による VRFB を用いた蓄電所案件も複数計画されていること等から、需要の高い地域であると見込み決定いたしました。当該工場では、電解液のみならず、マザープラントとして中間材料であるバナジウム粉末も製造いたします。これにより、当社の電解液の要となる高品質なバナジウムの安定的な確保につなげます。工場は年内に着工を開始し、量産開始は2026 年度下期となる見込みです。

Q13: エネルギー事業(LE システム+RS 資源)の 中長期的な戦略を教えてください。

A13: エネルギー事業は、LE システム及び RS 資源で、取り組んでまいります。

LE システムは、日本を中心としたトータルエネルギーソリューション事業として、電解液の製造、販売に加え、電気料金最適化コンサルティング、蓄電システム販売、蓄電所運営等、中長期的にエネルギーに関する蓄電総合ソリューション企業となれるよう進めてまいります。

RS 資源に関しては、攀枝花工場を建設し、中国市場へ電解液及び中間材料(バナジウム粉末)の販売を行います。また、並行して中国のその他地域への拠点設立も検討してまいります。

具体的な計画は、2月13日開示予定の中期経営計画2026に向けて現在精査中でございます。

Q14:DG テクノロジーズの3Qの振り返りをお願いします。(決算説明資料 P6)

A14:3Q の売上高は、半導体市況の回復も影響し、過去最高水準となりました。しかしながら、製品構成や原材料高騰等により利益創出に関しては課題が残る状況となりました。

Q15:商社機能の3Q の振り返りをお願いします。(決算説明資料 P6)

A15:3Q 時点の業績は、概ね社内の想定どおりに進捗しています。

前年の3Q には、特定商材の売上高悪化が業績および営業利益率低下に影響しましたが、今期は他の商材でカバーすることができており、製品構成の立て直しが功を奏しております。

<ご参考資料>

[2025年12月期 第3四半期 決算説明資料](#)

以上